



### 今日のキーワード『新型肺炎』感染拡大への不安の先を見極めよう

中国湖北省武漢市で発生した新型コロナウイルスによる『新型肺炎』は患者数が大幅に拡大し、日本や海外でも感染が確認されました。WHO（世界保健機関）は1月30日に緊急事態宣言を発表し、2月6日には「いまだに激しい大流行のさなかにある」として、感染のピークはまだ過ぎていないとの見方を示しました。中国をはじめ各国では感染拡大阻止に向けた取り組みが行われていますが、各方面への影響が懸念されています。

#### ポイント1

### SARSを上回る『新型肺炎』感染拡大

- 中国湖北省武漢市で発生した新型コロナウイルスによる『新型肺炎』の感染拡大の報道が続いています。2月6日、WHOは『新型肺炎』は「いまだに激しい大流行のさなかにある」として、感染のピークはまだ過ぎていないとの見方を示しました。

#### ポイント2

### 感染拡大による経済への影響を懸念

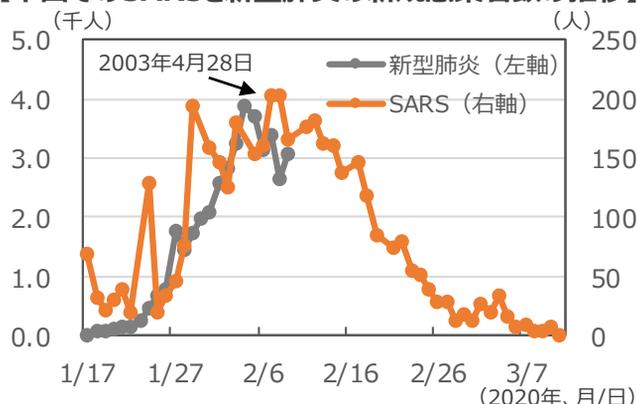
- 感染拡大を阻止するため人々の接触を制限する必要があることから、生産・消費が抑制され、経済活動や株式市場への悪影響が懸念されています。
- 世界第2位の経済力を誇る中国の経済成長が減速すれば、一時的に世界経済も減速し1-3月期は前期比マイナス成長になるとの予測も報道されています。
- しかし、過去にSARS（重症急性呼吸器症候群）、MERS（中東呼吸器症候群）が流行した際には、株式市場への影響は大きなものではありませんでした。

#### 今後の展開

### 感染拡大が限定的ならば、短期間で悪影響が消化されよう

- 今回の『新型肺炎』も、感染拡大が限定的ならば、株式市場の材料としては短期間で消化され、市場への影響は小さいと考えます。現時点では感染者数は増加しているものの、そのほとんどが中国国内となっており、地域は概ね限定されています。
- 各国の感染拡大阻止の取り組みによって比較的早期に新規の感染者数増加に歯止めがかかり、中国国内の封鎖措置等の先行きに目途がつけば、株式市場はその悪影響を順次消化しつつ回復に向かうとみられます。

### 【中国でのSARSと新型肺炎の新規感染者数の推移】



(注) 新型肺炎の2020年1月17日からのグラフに、SARSのデータを重ねた。データは新型肺炎:2020年1月17日～同年2月9日、SARS:2003年4月7日～同年5月31日。

(出所) 中国政府のプレスリリース。SARSの4月18日以前のデータは、中国・香港のWHOの累計感染者数のデータを基に三井住友DSアセットマネジメント作成

### 【SARS流行期間中の株式市場の動き】



(注) データは2002年10月31日～2003年7月31日。

(出所) Bloomberg L.P.のデータを基に三井住友DSアセットマネジメント作成

#### ここもチェック!

2020年2月 5日 吉川レポート：新型肺炎リスク vs. 流動性・低金利

2020年1月24日 懸念される『新型肺炎』の動向

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友DSアセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。